

S03-5 予防薬学を志向した保険薬局からの研究発信

○野田 敏宏¹

¹十仁薬局

保険薬局の薬剤師は、病気の状態にある患者だけでなく、健康もしくは未病の状態にある方々からのサプリメントや各種健康食品にかかわる健康相談をうけることも少なくない職種である。2008年に行った保険薬局来局者に対するアンケートでは64%の患者がサプリメントについて医療関係者からのアドバイスを希望していた。また、アドバイスを誰から受けたいかという項目では薬剤師という回答が最も多く、サプリメントや健康食品に関する薬剤師への期待が薬剤師自身の認識以上に高いことが窺われた。これらの製品の問題点として、イメージを作り上げることで利用者の勘違いを期待する表記や製品讚美の広告の氾濫が挙げられる。薬局薬剤師は科学的な視点を持って質の高い情報を選別し、その情報を能動的に発信することが期待されている。我々は2003年から「健康食品情報研究会」として、地域保険薬局と薬系大学スタッフの連携により活動を続けてきた。活動は一般向け情報誌「あるたな」の発行を中心に行っており、これまで話題性の高い題材を取り上げ、2008年秋までに9号を発行した。記事は科学的な視点に立った中立的な情報提供のみならず、「CoQ10含有製品の成分含量と溶解性」「市販茶のカテキン類含有量」など必要に応じて検証実験を行い、結果を掲載した。日々の保険薬局の業務からテーマを抽出して検証し、さらにその研究成果を薬局利用者へフィードバックすることは、保険薬局ならではの研究発信の方法であると考えられる。今後、このような取り組みの広がりを期待したい。